

様式1

令和4年度 学校評価表

学校教育目標	感性豊かに しなやかに たくましく生き抜く人間の育成 ～未来を拓く基盤をつくる～							
a ミッション	「オール浦崎」で取り組む キャリア教育の充実による 主体的な学びの実現			a ビジョン	生徒が自信と誇りを持って活動し、地域や保護者から信頼される学校をつくる			

尼道市立浦崎中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価	改善計画		
b 中期終点目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 達成度	1月 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価	l コメント	m 改善案
夢と志を抱き グローバル社会を生き抜く児童・生徒の育成	主体的に学ぶ力の育成	基礎的・基本的学力の定着を図り、児童・生徒が自ら課題解決する力を育成する【主体的に学ぶ力】	・自ら学習に取り組んでいるという生徒の割合（昨年度：73.7%） ・各教科で学習したことを見ても、総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、活動に取り組んでいるという生徒の割合	昨年度より向上 85%以上	72.0% 80.0%	97.7% 94.1%	B	「『やひなさい。』と言わなくてても、自分が進んで勉強します」という生徒の割合が、昨年度1月よりも1.7ポイント減少した。特に、2・3年生の3割後の生徒が「やひなさい」と言わないと勉強できず、その割合は昨年度も昨年度も1.7ポイント増えている。やり切り教室を実施するなど、授業の未達成者は勢力を減少する傾向にある。授業の未達成者は勢力を減少する傾向にある。授業の未達成者は勢力を減少する傾向がある。授業の未達成者は勢力を減少する傾向がある。	3	○小学校、中学校で目標と同じにしてあるのがよい。○短期で評価しているが、長期で評価する視点があつてもよいのではないか。 ○評議会で取り組んでいる生徒が多いよう印象を受ける。中間評議会の期末試験などで、「○○会でつとめているから大丈夫。」といふ声を耳にしたことがあります。学力だが、学習意欲を高める取組をしてほしい。 ○地域を学ぶ取組を、総合的な学習の時間で行ってほしい。（例えば浦崎カルタを作成）	○定期テストに向けた「質問教室」への参加者が増えつつあるが、参加者がゼロの教科がある。連携させていないところに気づくよう家庭学習の仕方をアドバイスするなど、家庭との連携を強化していく。 また、「やり切り教室」の定期実施や学年別定期評議会、課題を提出し切れない生徒には、担任、教科担任と連携して学習の計画を立てて取り組ませる支援を綿密に行うとともに、定期テストや日々の家庭学習等を計画的に取り組ませる活動を生徒を学習体系と連携して工夫していく。
			授業改善を通して思考力・表現力の育成を図る【思考力・表現力】	昨年度より向上 昨年度より向上	76.0% 80.0%	92.1% 91.2%	B	授業で情報の比較・分類・関係づけを通して、何が分かるのを覚えているという生徒の割合は昨年度1月よりも6.5ポイントも減少している。3学年は2.1ポイントも減少したが、2年生は1.4ポイントも減少している。 また、授業で自分の考えを分かりやすく伝わるよう工夫して発表しているという生徒の割合も昨年度1月よりも7.5ポイントも減少している。理解の深さを覚えているという生徒の割合と並んで、3学年は1.6ポイントも増加したが、2年生は1.2ポイントも減少している。 どちらも、新型コロナウイルス感染症対策としてグループ活動や考え方学習の制約される中、自分の考えを深め込む方法を見失っていると考えられる。分りやすく伝わる工夫をしようとしているが、構造的に見失っていないといいと課題感が浮き彫りになった。	3	○相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫して、積極的に発表しているという生徒の割合は、全体で減少している点が気になる。臺本入試が変わり、自己表現が導入されることもあるので、力を入れてほしい。	○学びのツールを取り入れた授業づくりを小学校との連携を通して継承し、フレーム等を活用して複雑化することを通して、力を図っていく。また、自分の意見を出しやすい環境をつくる（うつタブレットやスマートフォンのiCFTを使用して意見交流や積極的にいるなどの工夫次第を図っていく）。 ○総合的な学習の時間の学習結果などを発表する場や各教科の「振り返り」活動を実施するなどを多く設定することを通して、自分の意見を伝える機会を増やしていく。また、授業により積極的に発表させていく活動を主とせず併せて進めていくことを通じて、自分の考え方を広げりやすくなるための工夫を指導していく。
	自己肯定感の向上	前向きに取り組むことができる自己コントロール力を持つ【かかわる力】	・自己肯定感に関する問い合わせに肯定的に答えている生徒の割合（昨年度：81.9%） ・集団の中で安心して生活できるという生徒の割合（昨年度：96.5%）	昨年度より向上 100%	74% 94%	90% 94%	B	自己肯定感に関するアンケートでは、「自分の良い点や長所が見えます」という回答には4.6%、「自分自身として人のために役立つていています」という回答には6.6%、「自分の良さは他の人のから認められていると思います」という回答には8.2%が肯定的な回答をしている。否定的な回答をしている生徒を見ると、本当に自分の生き方でない生徒がいるけれども、どうやって表現したらいいかわからない、どうやって伝わらせるかわからない、評価をしていて生徒がいると思われる。「安心して生活できる」との回答には9.4%が肯定的な回答をしている。否定的な回答をした生徒を見ると、6%の生徒は否定的な回答をしており、誰もが安心できると思えるには至っていない。	3	○生徒が楽しく学校に通うことが一番大切である。「学校に行きたくない」という生徒がいることが一番心配で大変でしょうが、頑張ってください。	○生徒会活動や学級活動を通して、生徒自身が自分の良さに気づくことのできる取り組みを行っていく。例えば、生活会での日々の努力や取り組みに対して、他者から認められる機会を増やしていく。 ○誰もが安心と感覚する環境づくりに向けて、他者を思いやる行動をして、担任やスクールワーカーとの個人面談を通じて、担任やスクールワーカーとの個人面談へと生かす。
			特別活動や行事、園小中連携、地域の人との関わりを通して、互いに関わり合う集団・個人を育てる【かかわる力】	昨年度より向上 昨年度より向上	68.7% 54%	107% 80.9%	B	昨年度は新型コロナウイルスの影響で多くの行事が中止となり、参加できてもできないといった問題が生じた。しかし、多くの生徒が開催されたことで、肯定的な回答が増加した。昨年度も「自分が楽しんでいいからいい」という回答が「自分から楽しんでいいからいい」という回答よりも9.6%、「自分の良さは他の人のから認められていると思います」という回答よりも12.7ポイントも増加しているが、地域から「挨拶をよくする」「言葉が少なくて、また教諭の前ででも、生徒から挨拶をすると自分がうれしくなる」との声もあり、地域の開催による評議会の取り組みが効果的であった。園小中連携運動会や小学校運動会が3年ぶりに開催され、肯定的な回答が増えると予想されていたが、昨年度より12.7ポイントも減少した。取り組み自体には真剣に取り組んでいたが、何が「ためになる」とこと理解できていない生徒が多いのではないかと思われる。	3	○6月に行われた小中合同運動会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、午前中開催であったが、コンバットにましまっており、大変良かった。 ○新型コロナウイルス感染症対策のため、行事等生徒の活動が限られるを得ない。その中のでの教育活動は大人との距離感を保つため、運動会や運動部活動を実施しないが、持続的なもので、受けやすく受け付ける指導を行なう。 ○学級活動で生徒自身が行事を振り返る場面を充実させていく。例えば、話し合いや振り返りシートを通して、「子どもたちが学校の児童のためになったことは何か」について、様々な視点から振り返らせる活動を行なう。	○肯定的回答の増加は、今年度実施した「あいさつグランプリ」の影響を受けるが、一般的な回答に少しある。 ○地域の人への挨拶について、「テニス部の生徒達を練習試合に送迎したのだが、全員一人一人「お前らしいです。」「ありがとうございます」と自然に挨拶をしており、良いと感じた。一方、地域の中で生徒に声をかけても、無視して通り過ぎる生徒もいる。学生同士双方の接觸が必要ではないが、 ○自動車のマナーが悪い生徒がいる。自転車指導を行なってほしい。

【自己評価 評価】

A : 100 ≤ (目標達成)
C : 60 ≤ (もう少し) < 80B : 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
D : (できていない) < 60

【外部評価】 イ : 自己評価は適正である。ロ : 自己評価は適正でない。ハ : わからない。